

5月の防除調査で捕獲されたミドリガメ—明石市提供



ミドリガメ

明石市が引き取り

「ポスト」設置 野生化に歯止めを

野生化した外来種のミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)の大量繁殖に歯止めを掛けようと、明石市は飼えなくなったミドリガメを引き取るキャンペーンを実施する。16～31日、市役所などに特設の「カメポスト」を設置し、「捨てガメ」の野生化を防ぐ。

北米原産のミドリガメは、祭りの屋台などで売られているが、大きくなくなって捨てられ生態系を壊す問題となっている。環境省は輸入や飼育が原則禁止される特定外来生物の指定を検討している。同市でも、在来種のニホンイシガメの生息環境を圧迫し、トンボやハスも減少しており、今年5～8月に谷八木川周辺のため池で行った防除調査では、捕獲したカメ3168匹のうち1845匹(58・2%)がミドリガメだった。キャンペーンでは、午前9時半～11時に市

役所本庁や市民センターなど日替わりでカメポストを設置し、家庭でペットとして飼っていたミドリガメを職員が引き取る。事業者やペットショップ、ブリーダーからの引き取りは不可。環境総務課にカメダイヤル(078・918・5029)も設け、自宅への出張引き取りの相談にも応じる。

引き取ったカメは、神戸市立須磨海浜水族園の淡水ガメ研究施設に収容する。市は「可哀そうと自然に放す行為が、生態系を壊していることに気付いてほしい」としている。

【駒崎秀樹】